

奈良市総合計画審議会小委員会（第4回）会議録

1 日時 平成22年5月20日（木）午前10時00分～正午

2 場所 奈良市役所 中央棟5階 キャンベラの間

3 出席者

【委員】伊藤忠通委員長、高橋敏朗委員、根田克彦委員、安村克己委員
（欠席 石川路子委員、宇野伸宏委員、舟久保敏委員）

【市職員】企画部長、企画政策課長他職員

4 会議事項

奈良市第4次総合計画基本構想修正案について
公開で審議。傍聴人は0人。

5 配布資料（別紙）

資料 1 基本構想修正案 整理表

修正案 1 小委員会

修正案 2 委員長

修正案 3 庁内策定

奈良市の主要課題 案1

施策の大綱整理表 案2

資料 2 総合計画審議会 部会設置（案）

6 議事の要旨

事務局より

- ・本日は、基本構想修正案1～3について、確認いただくとともに、意見をいただく。
- ・本日検討いただいた内容を第4回審議会にて審議していただき、審議会が中間答申として市長に提出する予定である。

その後、6月4日から7月2日までパブリックコメントを実施する予定である。

（1）構成について

現在の第2章の構成は、現状、課題、理念、将来像、基本方向と続く組立てであ

るが、前半に理念・将来像がある方が、理解しやすいかと思う。

具体的となる重点戦略は、基本構想ではなく基本計画の前半部分などにあると、収まりが良いかと思う。

第3次総合計画の理念はどのような内容か。

あまり具体的な内容ではない。

抜粋すると、「人と自然と文化を大切にすまちを都市の理念とし」となっている。

第3次に比べて今回は、「環境、活力、協働」について詳しい記述がある。

第3次総合計画から第4次総合計画に変わるに当たり、構成を変えた意図は何か。いろんな組み立て方があがるが、理念・将来像を前半に持ってくる案の方が、市民に説明することを想定したとき、論の進め方としてわかりやすいかと思う。

第3次総合計画では、第2次総合計画の流れを踏まえて策定、という流れになっている。

第4次総合計画で、現況、課題等なしに、いきなり理念として「環境、活力、協働」が出てくると、違和感があるのではないか。

理念の前に、理念が「環境、活力、協働」となった背景の説明文があるとわかりやすくなる。

例えば、「今の時代は環境問題、持続的な成長、経済などの面で社会の活力が低下しているが、行政主導ではなく、いろんな主体と協働しながらまちづくりを進めなければならない」というような前文があるとよい。

前文としては、現在の構想案の各理念に記載されている一段落目を記述すれば良いのではないか。

現況・課題と、6つの基本方向の間でそれぞれ整合が取れていない部分がある。

6つの基本方向は市民会議の意見が基になっているが、今回の総合策定の趣旨には、市民会議の意見をどのように反映させるかという話もあり、整合性の確保が課題である。

市民会議の意見は将来像に関するもので、基本方向としては抽象的になってしまっている。

上記の整合を取るため、現状把握の後、基本方向を頭に置きながら、課題を考えると組み立てにすることも考えられる。

しかし、以上の組立てでも、整合を取るためそれぞれのすり合わせは必要になる。

市民会議の6つの基本方向は、大綱である基本計画における6章から考えると内容が跨ってしまっている。

内容が跨ってしまうこと自体は問題ない。

しかし、やはり、構成としては、理念、将来像、基本方向、現状、課題という流れがすんなり理解できる。行政ですり合わせをしていただくと良い。

6つの基本方向に対して施策が横断しているが、横断的に総合行政を考えるとこのことをキーワードにすることも考えられる。

縦割りの行政に横棒を刺す（担当部署を横断する施策が発生する）のが総合計画である。

施策の大綱はマトリックスで示されているため、どの部署が中心になってプロジェクトを展開するか決定すればよい。

プロジェクトに関係の薄い部署は役割を明確にし、オブザーバーとして参加することなども考えられる。

〔事務局〕そもそもは序に入っていた奈良市の主要課題が基本構想に入ったことで、少し構成がおかしくなったと思っている。

序に市の現況、課題があり、基本構想に理念・将来像・基本方向があれば収まりは良かった。

修正案としては、序に現況・課題を戻すのではなく、目的等のある第1章に現状・課題を移動させて、第2章で理念・将来像・基本方向・施策の大綱を打ち出すことが考えられる。

また、今回初めて出来た数値目標については、構成の途中に入れ込むとややこしいため、例えば構成の最後に追加するという形にすれば、第3次総合計画との比較もしやすくなると思われる。

第3次総合計画では基本方向が施策の大綱に対応していたが、今回は市民会議の意見を踏まえて基本方向を作成したため、施策の大綱に対して横断的になっている。

これについては、施策の大綱がマトリックス形式で整理し、示されているため、問題はないと考えている。

現状と課題が分かれるなど、順番が錯綜すると構想を読む市民が分かりにくいいため、事務局が提案したとおり、現状と課題はまとめて別（章）で整理しておく方が良いかもしれない。

それにしても、現状・課題と基本方向の整合を取る必要がある。

施策の大綱を示した以降の章が、大綱（基本計画における章立て）で分けた順序で展開されるのであれば、施策を6つの基本方向に分けた意義はそれほどない訳なのか。

6つの基本方向と施策の大綱の一致は必ずしも必要ない。

序に現況と課題を整理することも考えられるか。

〔事務局〕序は市政の状況等を説明している。よって、現状は序でも良いが、課題は序で良いのかどうかは考えものである。

（元々基本構想で触れていた課題は人口問題についてのみだったが）基本構想における課題は人口問題だけで良いのか、という指摘があり、その他の課題も基本構想に移ってきた経緯がある。

第3次総合計画では、基本構想の序に課題が入っている。

第1、2次の総合計画では、基本構想に特性と課題があり、同じ章に

理念も含まれている。そして、その後の章で将来像が示されている。
第4次総合計画は、過去の計画とある程度対比できることが好ましい。なかでも、第3次総合計画との構成・内容の対比性は少なくとも必要かと思う。
ただ、過去の総合計画で明らかにおかしい部分の修正は必要であり、縛られすぎる必要はないと思う。

第3次総合計画はここまで達成したから、その反省を基に、第4次総合計画はこのようなものにする、という記述はいらぬのか。

〔事務局〕基本計画の振り返りは実施しているが、基本構想自体の振り返りは、確かに文言上行っていない。

第3次総合計画では総論のなかで分析を詳細に行っており、今回基本構想のなかにも分析があるとすれば、内容として重複する部分もでてくるのではないかと思う。

課題において現状と分析が具体的である一方で、基本方向は抽象的である。

もっと分析を生かした方が良いと思う。

まちの指標も基本方向に比べて具体的である。

具体的な数値目標は必要なのか。

〔事務局〕基本計画について振り返りがあることは先ほど事務局よりお話しした。
一方で、これまで基本構想には達成度を測る指標が入っていなかったため、第4次では満足度等の指標を導入した。

基本計画等では、より細かい事業単位では、満足度等ではなく、しっかりと計測可能な指標を設定することになる。

他市町の基本構想をいくつか見ると、確かに将来人口が載っている自治体もあるが、結果（の数値）のみである。

根拠等については（基本構想策定後の）分析段階で示す内容で、基本構想では不要ではないかと考えている。

例えば、将来人口や、必ずしも数値を入れない住みやすさといった結論部分だけ示せばいいのではないかと考えている。

分析には戦略的内容も記述されている一方で、基本方向は抽象的であることが気になる。

元々基本構想とは抽象的なものであり、そのなかにある程度具体的な内容を序などに入れて、読むに耐えるものにするには悪くないと考えている。

それでは、序に市の現況と課題をもってくることにするか。

ひとつの案として、良いと思う。

重点戦略については、基本計画のなかで示せばよいか。

総論として、最後に位置づければ問題ないとも思う。

(2) 都市の将来像について

6つの市民会議の案から選ぶとすれば、市民会議の意見を反映したことにはなる。いくつかの案を挙げて、委員に選んでもらうという形にしなければ決まらないかと思う。

〔事務局〕理念の3要素である環境・活力・協働を入れて表現することが一番望ましいとは考えている。

現在の案には協働の理念が欠けていることが気にかかっている。言葉としては出てこないが、協働するためには主体間の交流がなければならないといった考え方はできる。

しかし、その場合には説明文が必要である。

重点戦略として観光を取り上げるのであれば、将来像にも反映させなければならない気がする。

「環境・活力・協働を志向する国際観光都市・奈良」はどうか。

「持続可能な国際観光都市・奈良 ～協働によるまちづくり～」はどうか。

以上2つを新たな提案として元の案に加え、第4回審議会にて決定する。

委員の挙手による多数決など、選択方法については検討が必要である。

将来像は、6月に始まるパブリックコメントで変わる可能性もある。

現状と課題をどの章に入れるか確認したい。

〔事務局〕現状と課題を序に入れてしまうと、パブリックコメントの資料に出てこないため、注意が必要である。

(3) まとめ、その他について

構成としては、第1章は課題を含めた構想を考える上での背景等を示す。

第2章は理念・将来像・基本方向など、構想の考え方を示す。

第3章は施策の大綱の考え方等を示す。

また、重点戦略は基本構想から外して、基本計画に盛り込むことにする。

「市政づくり」という表現の修正に関しては、行政に検討していただきたい。

指標において、現状と目標を別段落で示した方がよい。現在は一部で、段落内で現状と目標が入り混じるものがあるなど、統一が取れていない。

部会の数については3つでよい。委員全員が毎回参加できるわけではないため、部会を細分化しすぎると参加人数が限られてしまう。

以上